

各地区の取組はいかがでしたでしょうか？
皆さんの地区でも取り組める内容があったのではないのでしょうか。

まちづくり活動の持続可能性を高めるためには…

デジタル化が必須です！！



デジタル化が必須とはいえ、顔と顔を合わせる事がまちづくり活動の醍醐味のひとつであります。

もとより、デジタル化で課題が全て解決する訳ではなく、全てのリアルの活動がデジタルに置き換えられる訳でもないため、デジタルとリアルの活動とのバランスをどう取るかが大事なことです。

「横文字並べられても分かんよ！」とわずに、デジタル化を進めて持続可能なまちづくり活動に取り組んでいきましょう！！

『皆さんの地区のデジタル化を行政が支援します』

○まちづくり活動活性化補助金

事務運営や広報、体育祭等にご利用いただいている補助金ですが、デジタル化の財源としても利用可能なケースがあります。まずは、まちづくりセンター長にご相談ください。

○デジタル推進課

主に高齢者等を対象とした初心者向けスマホ教室を開催しています。

「デジタル化に取り組みたいけど、どこから手を付けたらいいかわからない…」

思い立ったら、まちづくりセンター・まちづくり課に相談してください！

～コラム～ 「富士市まちづくり協議会連合会」が発足しました

本連合会は、各地区のまちづくり協議会が、コミュニティ活動の活性化を図るため、各地区まちづくり協議会相互の連携及び行政機関との協働により、持続可能な地域コミュニティづくりに向けた活力ある地区まちづくり活動を推進することを目的としています。

具体的な活動は以下のとおりです。

- (1) 地区まちづくり協議会の課題解決に向けた活動に対する支援や交流事業（まちづくり交流会の開催など）
- (2) 地区まちづくり協議会活動の情報共有（理事会の開催など）
- (3) 行政機関との連携促進（市長との行政懇談会など）
- (4) 市内外で活動する団体との連携促進
- (5) その他本会が定める業務



令和4年6月5日設立総会開催（ロゼシアター）

新 コブタレポート

No.22

コブタのまちづくり知恵袋 NewsLetter

もはや待ったなし 🖐️

まちづくり活動におけるデジタル化のススメ 🖐️

～まちづくり活動の持続可能性を高めるために～

こんなまちづくりのお悩み、抱えていませんか？



人口減少や定年延長で、まちづくりの中心世代になっている65～75歳の人たちが少なくなると、役員の高齢化や担い手不足が深刻だから、役員の負担を軽減して、若い世代や現役世代の活動参加を促したい



サービス産業従事者や女性の社会進出の増加で、まちづくり活動への参加者が減少しているから、より多くの人にまちづくり活動に参加してもらいたい

コロナ禍の中、対面でのいろいろな活動が制限されてしまっているため、コロナ禍でもまちづくりを前に進める方法がないだろうか

これらのお悩み解決のためには…

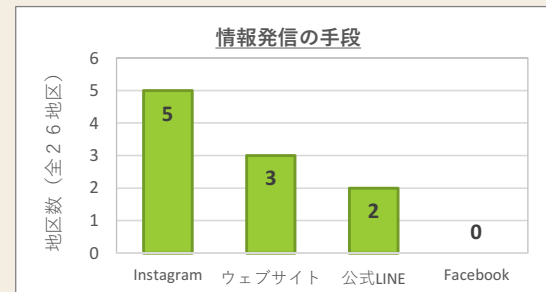
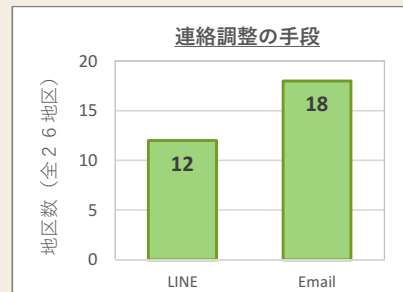
デジタル化が解決の一助になるかも？！



今回のコブタレポートでは、こうした悩みを解決しようとデジタル化を進めるまちづくり協議会を紹介します。それぞれの取組は、どの地区でも取り組める内容ですので、きっと参考にできるものがあると思います。

◇富士市26地区まちづくり協議会のデジタルツールの導入状況（令和4年7月時点）

『まちづくり協議会内での連絡調整・コミュニケーション』の手段として、**Email**を18地区、**LINE**を12地区が活用しています。『地区への情報発信』の手段として、**SNS**を活用する地区も増えてきているほか、コロナ禍を機に『**Web会議ツール**』を導入した地区もあります。詳しくは…中面特集へ 🖐️



【発行】令和4年12月

【発行者】富士市市民部まちづくり課 富士市永田町1丁目100番地（富士市役所3階）

☎ (0545) 55-2887 🌐 <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>

【編集者】まちづくり活動情報提供方法検討部会



LINEで楽々！迅速！コミュニケーション

一 まち協デジタル化推進部設置

須津地区まちづくり協議会では、協議会の連絡手段としてLINEを使用しています。須津地区ではまちづくり活動のデジタル化を推進するために、**デジタル化推進部**という専門の部署を設けました。LINEの導入はその部署が主導行っています。

LINEを始める際、使い方の分からない協議会のメンバー全員に、インストールの方法や使い方を教えました。このようにして、まちづくり協議会全体でデジタル推進に取り組もうとする姿勢が、今回の取組の成功に結び付きました。

一 速くて便利な連絡ツール

LINEの良い点は2点あります。1点目は郵便と違いお金もかからず、瞬時に連絡が届くこと。2点目はメールと違い相手が連絡を見たかどうか分かることです。LINEを使用することで、**今までとは段違いの速度で情報伝達ができるようになりました。**

今では協議会のメンバーのほとんどがLINEを使用し、会議の開催通知や行事に関する相談をしています。文章では上手く伝達できない場合は、電話などで連絡をとることで、LINEの弱点をカバーしています。

一 ルールを定め、快適な運用を

これからの課題としては、利

須津地区

取材を受けてくれた方…
広報部 小沼 温子 さん



用していく中でコメントの打ち方や、返信の仕方に一定のルールができてはいるものの、明確化して決められてはいないため、アプリの利用方法を書面で定めていくことがあげられました。

運用ルールをしっかりと定めることにより、みんなが気持ちよく活動に取り組みることができるとともに、LINEアプリを一層効果的・効率的に利用できるようにしていきたいです。



Instagramで情報発信...人材発掘・地域活性化に!!

一 広報講座から運用スタート

伝法地区まちづくり協議会では、令和3年12月よりInstagramでの情報発信を行っています。

きっかけは、令和2年度に実施された「まちづくり広報講座」に総務企画広報局員3名が参加し、Instagramの基本操作を学んだことです。近年、地区回覧を見ない住民が増えていると感じることが多く、Instagramでの情報発信が、そうした層へのアプローチになればと考え、アカウントを開設、翌年度には協議会役員6名も同講座に参加し、本格的な運用をスタートしました。

一 投稿きっかけで人材発掘も

投稿は、協議会の活動やイベントのお知らせの記事がメインです。幅広い年代の方から投稿に対して反響があります。イベントを手伝

いたいという人も現れる等、**人材発掘につながる**ことも。他にも、地区のグルメやスポット紹介記事を投稿すると、**店と地区両方のPRとなり、地域活性化につながる**と感じています。幅広い分野の記事を投稿することで、今までまちづくりに興味がなかった方にも興味をもってもらえたらと考えています。

また、Instagram上では、県外市外のまちづくり協議会とも気軽につながることができ、活動の様子を見ることが出来るため、そこからアイデアを得ることもあります。



伝法地区

取材を受けてくれた方…
企画広報総括 志田 敦子 さん

Instagramは、広報誌と異なり、**フォロワーという形で情報の受け取り手が数値化されて見えます。**フォロワー数が増えることで、地区を知ってもらえていると実感することができ、やりがいもつながります。現在、フォロワー数は400人。500人越えを目指し、まちづくり協議会からの情報が多くの人へ届くよう今後も発信を続けていきたいです。



◀(左) 広報講座の様子
◀(右) 伝法地区 Instagram

協議会の会議をZoomで開催！参加者も増加！

一 事業見直し、コロナも影響

協議会事業の見直しで「会議が多い」という声があったこと、また、コロナ禍で大人数が集まる会議の開催が難しかったこともあり、天間地区では**ウェブ会議ツール「Zoom」を利用して会議等を実施**しています。必要な機材の購入は、まちづくり協議会デジタル推進補助金を活用しました。

主な会議として、月1回協議会構



成団体や関係団体が集まる「連絡会・安全会議」を**ウェブと対面（会場：まちづくりセンター）**で併用開催しています。

一 資源・時間も節約できる

ウェブ会議導入前より**参加者は増加し、印刷代も削減**されました。ウェブ参加者からは、会場まで来る時間が短縮された、夜間に運転しなくてすむ等の声があがっています。



◀(左) 連絡会併用開催の様子
◀(右) 行政懇談会の様子

天間地区

取材を受けてくれた方…
会長 植松 謙 さん
事務局 佐野 明 さん

一方、会議の内容によっては、会場に集まって話し合うことが必要な場面もあり、使い分けが必要だと感じています。

連絡会の他にも、役員会等の会議や、住民福祉講座等の講座や研修もZoomを利用してしています。8月には、市長との行政懇談会もZoomで開催しました。

また、地区デジタル化の一環で天間地区公式Instagramも開設しています。

今後も、天間地区まちづくり行動計画に掲げるICT活用に向けて、様々な取組をしたいと考えています。

まち協ウェブサイトで、広く、正確な情報発信を!!



◀(左) ウェブサイトトップページ
◀(右) 活動報告のページ

一 地区要望からサイト開設

田子浦地区まちづくり協議会では、生涯学習推進会に引き続き、**2018年に市内でもいち早くまちづくり協議会ウェブサイトを開設し、情報発信に力を入れてきました。**

当初は役員や地区住民から、体育祭などの行事・会議資料の情報が欲しいとの要望を受け掲載するようになり、その後も地区の要望に応じて、サイトの内容を充実させてきました。今では、『みなとまつり』や『みなとマラソン』の

情報は地区外からの閲覧もあり、ウェブサイト上の申込用紙をダウンロードして申し込む方もいらっしゃいます。他のSNSに比べると、「定期的に更新しなくては!」と焦ることもなく、行事の前後を中心に確実な更新を心掛けています。

一 時代に合わせまち協も発展

現在のウェブサイトは、無料サイトを利用して作成したものであるため、更新時のパソコン操作が複雑で、限られた役員しか更新で

田子浦地区

取材を受けてくれた方…
副会長 本間 卓也 さん
総務広報部 萩野 基行 さん

きない等の制約もあります。今後、多少有料でも作業しやすいサイトを利用して関わる人を増やしたり、内容を充実させたりしていきたいです。

また、最近、様々な行事に**中学生ボランティアが積極的に関わ**ってくれています。こういったデジタルネイティブの世代に、まちづくり協議会の情報発信に関わってもらうことで、もっと充実するのでは...と考えており、その仕組み作りも模索中です。

現在、田子浦地区はまちづくり協議会の組織体制・事業をこれからの時代にあったものにリニューアルを図っている最中でもあります。今後は行事だけでなく、**各部会**の様子なども詳細にウェブサイトにアップし、新たな田子浦地区の様子を引き続き発信していきます。

ちなみに...

Instagram とは、写真や動画を無料で共有できるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）です。

LINE とは、スマホやパソコン、タブレットなどで利用できる無料アプリケーションで、ユーザー同士1対1、複数人のグループで、無料でメッセージのやり取り、音声通話、ビデオ通話などができます。

Zoom とは、オンラインでセミナーや会議を開催するために開発されたアプリケーションで、遠隔地のユーザー同士が、映像や音声を使ってビデオ会議や電話会議をすることができます。

増加中!! 📍まち協公式 Instagram

各地区のInstagramのアカウントを富士市ウェブサイト上に一覧で掲載しています。ぜひご覧ください!! 今後、新たに開始する地区も随時追加していきます。



☑️ウェブサイトあります!!

田子浦地区



富士駅南地区



丘地区

